

公開実用新案公報

⑩実開昭49-26384

庁内整理番号 6346-35
2119-38

⑩公開 昭49(1974) 3. 6

審査請求 未請求

⑪軟膏用容器

⑫実願 昭47-66057

⑬出願 昭47(1972)6月3日

⑭考案者 鶴飼正一

東京都板橋区常磐台2の17の

14

同 西井上和夫

東京都江東区大島3の2の6株式
会社吉野工業所内

同 石井宏市

東京都中野区中野3の19の10

⑮出願人 第一製薬株式会社

東京都中央区日本橋江戸橋3の1
の2

同 株式会社吉野工業所

東京都江東区大島3の2の6

⑯代理人 弁理士 渡辺軍治

⑰実用新案登録請求の範囲

筒状容器本体1及び回動中栓2で構成され所望によりキャップ3付である容器において、本体1は、その周壁1a及び底壁1bから板状の隔壁1fを起立設し、かつ、本体1の上端に嵌合部1dを周設し、必要に応じ底壁1b上面中央に突起設さ

れた係合軸1。若しくは穿凹設された係合軸穴で形成された本体係合部1eを有し、回動中栓2は、内蓋部2a、その下面中央より垂下設した軸筒2d及び内蓋部2aと軸筒2dより起立設した板状の押圧隔板2eとから成り、内蓋部2aには押圧隔板2eを境にして相互に近接した部分に一方に注出孔2g、他方に通気孔2hを有し、かつ、内蓋部2aの周縁から垂下周設した鰐部2bの内周下端に嵌合部2cを有し、本体1と回動中栓2を組付ける際に、本体1の嵌合部1dと回動中栓2の嵌合部2cを嵌合させ、係合部1eがあるときは軸筒2dによつて形成される係合部2eを嵌合させ、本体1を回動中栓2で密封閉鎖する状態でかつ離脱困難ではあるが回動可能とし、この際、隔壁1fの内方端を軸筒2d周面に、上端を内蓋部2a裏面にそれぞれ密接接触せしめ、押圧隔板2eの外方端を周壁1a内周面に、下端を底壁1b上面にそれぞれ密接接触させることを特徴とする軟膏用容器。

図面の簡単な説明

第1図は本考案による軟膏用器の分解組立て図を示すもので各構成部品本体、回動中栓そしてキャップの一部を破断した正面図である。第2図は回動中栓の平面図である。

